

「場外馬券発売所」設置同意の請願書 請願理由の「根拠」示せず

一月二四日、継続審査中の「場外勝馬投票券発売所」設置同意の請願書についての「説明会」が開催されました。

請願理由8項目は、

日本中央競馬会

JRAが確認した事項

ではないことが判明

「説明会」は、請願書紹介議員の杉本君江・西村久子両議員で、「説明」には、請願五団体と思われる方が出席。（紹介がなかった。）

請願理由の8項目

- 1、彦根市民の福祉の向上、地域環境の整備改善が促進されること。
- 2、教育文化施設整備事業支援が得られること。
- 3、交付金・環境整備費の交付があり、彦根市の財政に貢献できること。
- 4、築城400年祭事業への支援が得られること。
- 5、雇用の拡大が期待できること。
- 6、地元地域の公共施設等の整備充実が図られること。
- 7、国道306号バイパスの設置が促進されること。（道路整備事業）
- 8、温浴施設利用により福祉健康に寄与すること。

議員側は、共産党議員団の成宮、山田議員のほか九議員が参加しました。

原多喜彌代表は、今までの「場外馬券売場」問題の経過を示しながら、資金回収は小さな事業ではできない。と（場外馬券売場をつくるのに）十五年も辛抱してきた。最終処分場等の環境整備も取り組んでいる。温泉施設も含んで開発するということが「地元同意」が必要だが、市長も地元市長として同意してほしいと思っているが、必ずしも市長同意が必要ではなく、地元自治会長でも良いのだ。彦根市の財政が厳しいとき、大いに貢献できる。などと話しました。

8項目の「根拠」は行政側でも「確認」できず

共産党議員団は、「8項目」

の根拠について、行政側にも確認しましたが、「いずれの項目についても確認できない」との回答でした。

「請願団体」の補助説明員として参加した長浜・材信の伊藤氏は、「要望」を正式に出せば、JRAもはっきりした回答をくれるが、要望が出せていない中で、コンサルタントに確認すると「可能」ということだ。厳密に言うとう八項目ができるかどうか不安はあるだろう。と発言。根拠のない「願望的項目」ということが明確になりました。

青少年問題、渋滞など、対策は万全だと
言うが：：？？

全国で実例が多数ある

共産党議員団は、青少年問題でも、実際に子どもを連れた親も入場している。大レースの時には、渋滞で大きな問題になっていて、

市民の心配がある。どのようになっているか。と質問。「請願団体」は、警備員を配置することで、絶対に起こらない。と考えている。渋滞でも、問題は起きていない。などと答えました。



共産党議員団は、青少年問題では、大阪場外馬券売場で、大阪府警少年課が調査した事例を示し、現に多くの青少年が「券を買っている」笛吹市石和中学校の「荒れた中学校」を生徒自ら汚名返上しようとして取り組んでいる読売新聞の報道を示して、「現に学校でも影響が出ている」と指摘。「渋滞」問題でも、石和の「有馬記念レース」の例を示して、「全く問題がない」というのは事実でない。と反論しました。

彦根民報

No. 781
2007年 1月28日

成宮 祐二 Tel 28-0625 Fax 25-1550 日夏町9.8.7
山田多津子 Tel・Fax 43-4476 石寺町1.3.3.2
事務所：彦根市長曾根南町494-5
Tel 22-5574 Fax 26-2452